

ひびき



No. 13

ドラム缶工業会会報

理事長就任にあたって

(鋼管ドラム株式会社 代表取締役社長)

ドラム缶工業会理事長
山口 哲夫



このたび、永井前理事長の後をうけ、第15代目の理事長に就任いたしました。ご承知のように、昨今の日本の経済状況は、穏やかではありますが回復基調に向かっているといわれておりますが、残念ながら住専問題や金融機関の不良債権の処理などは不透明の状態が続いていることから、産業界におきましては各業種とも景気回復という実態とはほど遠い状態ではないかと考えられます。

ドラム缶並びにペール缶の需要はここ数年間、数量面、価格面のいずれも低迷を続けており回復の兆しが見えない状態です。当工業会における需要の70%強を占める化学業界を例にとりますと、その代表的指数とされますエチレンの昨年の生産量は695万トンと史上最高値を示したにも拘らずドラム缶、ペール缶の出荷量は微増にすぎなかったことを考えますと、業界に構造的な変化が起こっているといわざるを得ない状況です。

このようにドラム缶工業会を取り巻く環境は極めて厳しい時期を迎えておりますが、工業会自体の発展を図り、また需要業界に満足いただける商品をお届けするために、いくつかの課題について活動を拡げて行きたいと思っております。

まず、環境保全の見地から廃棄ドラムを回収するリサイクルシステム作りについて、更生缶工業会と共同で研究を進めておりますが、この作業を積極的に推進することでドラムが放置されることなく、100%鉄源として再利用される方法を見出したいと思っております。

次にユーザー業界とお互いの立場を理解し合うよう話し合いの場を持って行きたいと思っております。ドラム缶、ペール缶の業界には、輸送の問題、口金問題、マーキング問題など、この「ひびき」の誌上で何度か取り上げたユーザーに

新役員紹介

| | | |
|--------|-------|--------------------|
| 理事長 | 山口 哲夫 | 鋼管ドラム(株)代表取締役社長 |
| 副理事長 | 山本 雄造 | (株)山本工作所代表取締役社長 |
| 同 | 田邊 雅也 | (株)ユニコン代表取締役社長 |
| 常任理事 | 永井 潤 | 川鉄コンテナ(株)代表取締役社長 |
| 同 | 安藤 成海 | 日鐵ドラム(株)代表取締役社長 |
| 同 | 阿部 肇 | ダイカン(株)代表取締役社長 |
| 同 | 松田 稔 | 大同鉄器(株)代表取締役社長 |
| 企画委員長 | 吉本 洋司 | 鋼管ドラム(株)常務取締役 |
| 国際委員長 | 皆川 博司 | 日鐵ドラム(株)専務取締役 |
| 業務委員長 | 高須 裕司 | 川鉄コンテナ(株)専務取締役 |
| 技術委員長 | 高橋 秀光 | 日鐵ドラム(株)取締役生産技術部長 |
| ペール委員長 | 折原 隆 | 新邦工業(株)専務取締役 |
| 関西支部長 | 西内 侃二 | 川鉄コンテナ(株)取締役営業総括部長 |

まつわる問題が山積しています。いずれもコストアップの要因となっておりますが、これらを個別ユーザーと話し合うことも大切ですが、今後は業界間で検討することで解決に向かって少しずつ前進し、お互いのメリットにつながるようにしたいと思います。また、ユーザー業界に満足していただける品質向上についても大いに役立つと考えます。

私達業界内部の問題としては、1トンコンテナに代表されるIBCなど代替品との競争も激しくなるでしょう。ドラム缶、ペール缶がその優位性をアピールし、その地位を確保するために技術開発、新製品開発を積極的に進めることが必要です。そのための共同研究や技術交流を従来にも増して推進したいと考えています。

ここ数年間に亘り業界の国際交流が盛んになってまいりました。世界のドラム缶業界の集まりであるICDMの会長に昨年から当工業会の永井潤氏が就任されています。そして今年4月に大津にて開催されたICDM国際会議には世界中から約200名の参加をみました。さらに、1998年にはアジア・オセアニアの国際会議がインドのボンベイで開催される予定になっており、国際的な活動も活発に行っております。ドラム缶や口金の国際規格の制定や国際間の輸送規則、リサイクル問題など国際間で解決を要する事項があり、日本の立場は益々重大になってきています。

以上述べましたような活動を通して、ドラム缶およびペール缶が従来にも増してユーザーの皆様のご愛顧に答われますよう、また皆様から信頼されるドラム缶工業会に発展しますように努力してまいりたいと存じます。関係の方々の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

鋼製ペール業界の現状と展望

鋼製ペールの需要動向

鋼製ペールの需要は、景気動向を反映して、平成5年度を底に6年度は103.0%と一旦は増加に転じたものの、7年度は僅かながら再び前年度を下回って99.7%となった。平成8年度も対前年度比微減の見通しである。

過去5か年の出荷量の推移は、下表の通りである。

鋼製ペールの年度別出荷実績推移

単位：千本、%

| 年 度 | 出荷本数 | 前年度比 | 平成2年度=100 |
|-------|--------|-------|-----------|
| 平成3年度 | 26,953 | 99.8 | 99.8 |
| 4 | 26,622 | 98.8 | 98.6 |
| 5 | 24,805 | 93.2 | 91.9 |
| 6 | 25,539 | 103.0 | 94.6 |
| 7 | 25,474 | 99.7 | 94.3 |

平成9年度からの容器包装リサイクル法の施行により、地球にやさしく、最もリサイクル率の高い鋼製ペールの需要が期待される。

PL法（製造物責任法）施行1か年を振り返って

本年の7月1日で、PL法が施行されて1年が経過した。この法に基づき、企業の手を離れた製品によって被害が生じた場合、企業の過失の有無を問わず欠陥責任が問われることとなった。

これに対応すべく、各需要家では、内容物に対する警告表示にのりだし、昨年年初から、鋼製ペールの印刷に、PL法関連の取扱い注意事項が挿入された。PL法の施行の前後で、最も変化したのは、警告表示が増えたことであるといわれている。

一方、鋼製ペール（空缶）自体の製造物責任法対応については、製品安全の確保は当然、個別の企業責任において実施されるべきものであるとの基本に立ちつつも、業界共通の対応として、鋼製ペールの品質と取扱いについて、以下のような文書を作成し、周知徹底に努めた。

PL法に関する鋼製ペールの品質並びに取扱い注意事項(抜粋) 【品質】

この鋼製ペールは、JIS Z 1620（鋼製ペール）の規格に準拠又は危険物容器基準（UN勧告、消防法）に基づき製造し、所定の品質、性能試験及び検査に合格した容器です。

【取扱い注意事項】

(1) 製品の安全性を確保するため、本来の目的以外には使

用しないで下さい

- (2) つる又は手環の取扱い時の注意
- (3) 容器の持運び上の注意
- (4) ふたの開封とバンドの開封時の注意
- (5) キャップ及び封印の取扱い時の注意

この1年、鋼製ペール自体の製品欠陥を原因とする事故は皆無であった。全般では、PL法関連の訴訟は、飲料メーカーと容器メーカーが訴えられた長岡地裁の1件のみにとどまったとのことであるが、全国に300余りある消費者センターが受け付けた製品事故に関する相談件数は、法施行後の半年間で、前年の2倍になったと報道されている。

液体危険物の天板取外し式ドラム（ペール）による海上運送について

運輸省では、液体・固体について改正されたIMDGコードに基づく判定基準（注1）によることとしているので、液体危険物を、天板取外し式ドラム（ペール）〔1A2〕で海上運送する場合は、次の手続き及び容器性能が必要となります。

【運輸大臣の許可】

荷送人は、危険物の船舶運送及び貯蔵規則（危規則）第390条の2の規定に基づき、危険物の海上運送に用いる容器及び包装について、運輸大臣に「危険物容器包装許可申請書」を提出して許可を受けること。

【1A2の容器性能】

液体危険物を収納する「1A2・天板取外し式ドラム（ペール）」は、液体危険物容器としての性能基準、即ち気密、落下、水圧及び積重ねの各試験に合格したものであること。

注1：101.3kPaの大気圧において、融点又は溶けはじめの温度が20℃以下の危険物は、液体としなければならない。



「ロゴマーク」の「商標」 登録出願の公告について

かねて商標登録の出願をしていた「ロゴマーク」が2～3か月後に特許公報で公告される予定となりました。

公告後2か月以内に異議申立てがなければ、登録査定の上、30日以内に登録料を納付し、登録完了となる見込みです。



今年も8月15日を迎えました。戦後51年、日本も豊かになりました。

でも、ちょっとこれを見て下さい。

(シーン1) 健康そうな若者が、長い脚を持って余しぎみに大きく広げ、座席に座ってマンガ誌を見ている。傍らに老齢の人が立っている。しかし、席は譲らないというよくある光景です。

(シーン2) テレビのクイズ番組。「一期一会」をどう読むかという問題。回答例「イッキイッカイ」「イチネンイッカイ」……。

日本の豊かさは、何割引きになるのでしょうか。



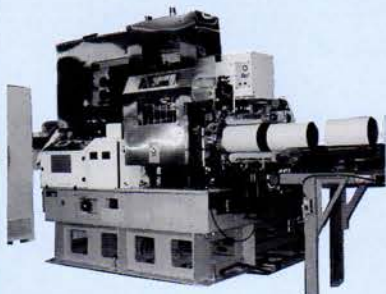
平成8年上半期(1～6月)ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

単位：千本

| 缶種 | 用途 | 石油 | 化学 | 塗料 | 食料品 | その他 | 合計 | 前年同期比 |
|-----|-----------|-------|--------|------|------|-------|--------|-------|
| 200 | Q 缶 | 875 | 4,285 | 395 | 55 | 158 | 5,768 | 96.5% |
| ペ | ー | 6,649 | 5,488 | 543 | | 311 | 12,991 | 101.4 |
| 100 | Q 缶 | 5 | 87 | 2 | | 微 | 94 | 106.0 |
| 50 | Q 缶 | | 147 | | | | 147 | 149.7 |
| ア | ス 缶 型 | 6 | 4 | | | | 10 | 104.2 |
| そ | の 他 容 量 缶 | 1 | 327 | | | 4 | 332 | 85.1 |
| 垂 | 200 Q | | 53 | 3 | 1 | 5 | 62 | 109.9 |
| | 鉄 板 | | 118 | 微 | | | 118 | 96.4 |
| 鉛 | 缶 小 計 | | 171 | 3 | 1 | 5 | 180 | 100.6 |
| ス | 200 Q | | 8 | 1 | 微 | | 9 | 100.1 |
| | レ | | 2 | | | | 2 | 78.2 |
| テ | ス ン 缶 小 計 | | 10 | 1 | 微 | | 11 | 91.7 |
| 合 | 計 | 7,536 | 10,519 | 944 | 56 | 478 | 19,533 | 99.9 |
| 前 | 年 同 期 比 | 94.5 | 97.8 | 97.5 | 74.5 | 104.1 | 97.0 | — |
| 構 | 成 比 | 19.0 | 71.0 | 6.4 | 0.8 | 2.8 | 100 | — |

(注) 構成比は、ドラム缶の出荷トン数の構成比。

**DATA
FILE**



21世紀へ
技術の新邦

新邦工業株式会社

当社は本年創立45年を迎えることが出来ました。設立以来終始、印刷・製缶・輸送の一貫した生産体制によりお客さまのニーズにお応えしてまいりました。今後も『熱意と誠意』のもと、創意工夫を怠ることなく品質向上に努めてまいります。

今回はその一端として、1号ラインに引続き2号組立ラインにも(ストレート缶・天地巻締缶)、ワイヤーシーム溶接機(写真参照)を導入し、これにより、すべてのパール缶が無研磨で製造可能となり、よりクリーンで美観の優れた容器になりました。

今後とも、お客さまのご期待とご要望にお応えすべく日々研鑽に努めてまいりますので、尚一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



ダイカン株式会社

1919年大阪市にて鋼製ドラム缶の製造を開始して以来、お陰様をもちまして今年で創業77周年を迎えることが出来ました。

当社は中、小型缶(鋼製ドラム15ℓ~180ℓ)の分野では国内最大の生産量を有し、鉄、ステンレス、亜鉛メッキ等の素材の異なった各種のドラム缶ならびにステンレス製特殊缶など様々なニーズにお応えしております。また、クラフトライナーを多層巻にしたファイバードラムでは、液体用ファイバードラムをはじめ強度抜群のCF型タイプ(オールファイバー製)など、お客様の要望にお応えすべく製品を数多く取り揃えております。

またダイカンは現在200ℓドラム缶月産10万缶規模の新規設備投資を行っており(1997年5月稼働予定)、最新の設備と永年培った技術を活かし、お客様へ高品質の製品をお届け出来ますよう全力で取り組んでおります。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館3階)
TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

 川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711


 協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371


 鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711


 斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881

 山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680

 新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町4-18 ☎ 03-3861-5285

 ダイカン株式会社
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601


 大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468


 株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511


 東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

 株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

 日鐵ドラム株式會社
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311

 株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

 森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551

 株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

 株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.13(平成8年8月30日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。